

令和 7 年沖縄県医師会 親睦囲碁大会参戦記

北部地区医師会病院 宮里 達也



天皇誕生日の連休中の 2 月 24 日に、医師会主催の囲碁大会が開催された。この親睦囲碁大会はコロナの影響で数年間、開催ができなかったが昨年から再開された。今年は世話役の照屋常任理事が中国旅行のため参加できなかったのは残念であった。そんななか村田先生に世話役を引き受けていただきどうにか開催することができた。

この会は囲碁を楽しむ会員にとって、とても楽しい会である。しかし近年、テレビゲームなどの出現の影響か、若い会員で囲碁を楽しむ人は極端に少なくなった。なんとも寂しい限りである。

囲碁は相当に古い歴史がある。中国前漢時代(206BC ~ 24AD)の皇帝の陵墓から出土している。わが国でもかなり古い歴史的記録が残っているようである。

特に囲碁は江戸時代にわが国で相当に発達した。いろいろな名人がお城碁として競い合い発達した。昭和時代までは、我が国の名人たちが世界各国の人々を指導していた。残念ながら現在は、韓国や中国の棋士が世界チャンピオンになっている。そんななか今年、一力という日本人棋士が世界チャンピオンになった。久々の快挙であり日本の囲碁界も相当に盛り上がった。

囲碁は一人で楽しむテレビゲームとは違い、二人で行うゲームである。それをする事は仲

間づくりにとても役立つ。私も囲碁を通じて多くの楽しい友人・先輩を得ることができた。私に囲碁を教えてくれたのは、南部地区医師会元会長で産婦人科医の故永山孝先生であった。病院当直時、空いた時間を見つけて碁を打って退屈をしのいでいた。先生も本大会には欠かさず出席していた。以前は、永山先生をはじめ多くの先輩の先生方が参加し盛んな大会であったが、先輩方が参加できなくなってしまい参加者は年々減少し、今年は参加者が 10 人と少なくなってしまい、残念である。是非とも、若い先生方にも数千年の伝統を伝え続けるためにも囲碁という面白いゲームを知ってほしいと希望します。

さて、結果であるが、今年も優勝は持ち前の“知力”をいかに発揮した砂川先生でした。先生の強さは参加者の中では抜きん出ており他の参加者を全く寄せ付けない強さでした。また特筆すべきは、知力ならぬ“痴力”をいかに発揮した早打ちで参加者全員と対戦してしまつた宮里が最多試合賞をいただきました。ありがたいことでした。

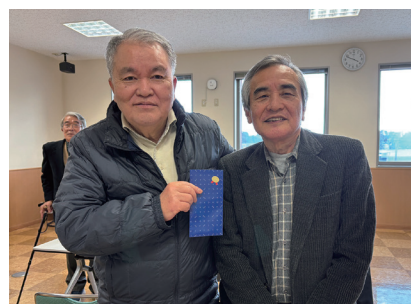
せっかくの休日にもかかわらず、私たちのための会の世話をいただいた県医師会事務方の仲宗根さんと山田さんには感謝申し上げます。ありがとうございました。来年もよろしく願います。



優勝の砂川先生 (右)



準優勝の友寄さん



最多試合数の宮里先生 (左)